

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200785
法人名	株式会社 W A L K
事業所名	グループホーム白寿園戸出
所在地	富山県高岡市戸出吉住新14番1
自己評価作成日	令和3年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム白寿園戸出では、四季折々の季節感を感じられる場所にあり、その静かな環境の中で笑顔や笑い声が絶えない施設づくりを目指しております。
ゆったりとした時間の中で一人一人の役割や楽しみを「共に見つけ共にに行い共に笑い」時には心に寄り添うような関りを大切に支援しています。ご家族へは日々の様子を毎月作成しお伝えする、記念日には職員も陰ながらのサポートを行うなど家族と本人の絆をより一層深められるような支援を行っています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者や職員は、利用者一人ひとりの思い『～したい、～見たい、～行きたい、～食べたい』に誠実に応えたいと、日々寄り添い、共に暮らすことができるよう工夫している。コロナ禍でできなくなったことも多く、職員体制の変化もあったが、そんな状況の中でなお、個々の思いに応えるため、感染防止を前提としたドライブやレクリエーション等、できることを少しずつ積み重ねている。毎月欠かさず担当者が個別に作成する<白寿園便り>では、笑顔の写真を添えて、日常の様子や健康状態等をきめ細かく個々の家族に報告するなど、馴染みの人との絆や信頼を築いている。社内研修会は計画を立てて毎月のミーティングの中で実施し、職員の学びの機会を継続している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9, 10, 19）	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 20）	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36, 37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関前及び廊下掲示板に運営理念、介護理念を掲示し、業務の中で理念を意識したサービスを提供できるよう努めています。	玄関に掲げられた簡潔で分かりやすい3つの理念（寄り添う・笑顔・出会いを大切に、等）は、毎年、3月の職員ミーティングで改めて共有し、一年間の振り返りと次年度に向けた取り組みの根幹として、実践に繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント（文化祭やコンサート、左義長）に参加するようにしたり、施設の納涼祭やイベントにも来てもらえるよう努めていたが、今年度は新型コロナウイルス流行や大雪の為にできていません。	コロナ禍で施設行事がほぼ中止となったが、平常時は、雛祭りや納涼祭に多数の住民参加があり、祭礼時の獅子舞来訪等、通年で地域との交流を図っている。また近隣の方が、自作の積み木や作品を利用者へと持参することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭やお祭りを開催し、認知症の理解や支援につながるよう努めていたが、今年度は新型コロナウイルス流行にてできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は職員のみで行っています。利用状況や現状を報告し報告書を玄関先や掲示板に掲載し、いつでも閲覧できるようにしています。	入居者情報、職員体制、日常生活（行事、介護事故）の報告の他、毎回タイムリーなテーマを決めて話し合いを行っている。話し合いの結果は毎回高岡市高齢介護課へ報告している。	運営推進会議の開催日時、話し合った内容の報告等は、公平性・透明性の観点から全家族に周知できるよう、その方法についての検討と取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止の対応方法の指導を頂いたり、事故や苦情時の対応についても報告や相談を行っています。	入居者状況や職員体制、日々の活動等について、運営推進会議の内容報告で伝えている。今年度はコロナ禍での事業所の運営体制、運営推進会議の開催方法等について随時相談するなど、行政とはいつでも相談・協力ができるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為、正面玄関ドアの施錠を行っています。外に出たいといった要望が聞かれた際はスタッフ付き添いの下、ドライブや施設周辺の散歩に行く事もあります。社内研修にて勉強会の実施、身体拘束廃止委員会も開催し、廃止に向けて取り組んでいます。	マニュアルの整備、身体拘束適正化のための委員会開催、毎月の社内研修のうち2回開催している研修など、身体拘束をしないケアのための体制を整え、職員間で共有化されている。拘束のないケアの基本として「自由を奪わない」「認知症進行予防」「家族の気持ち」を挙げ、職員は「自分が受けた介護」を心にとめケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において具体的に学び、普段から身体拘束や虐待はしないという意識をスタッフ間で共有しています。日頃から職員同士でも言葉がけなどに問題がないか目を配りながら、虐待へ結びつかないよう職員を交代したりして対応を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会を持つ事が出来なかったが、1名検討している方がおられる為、今後学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にご自宅へ訪問し、ご本人とお話させてもらっています。入居契約書や重要事項説明書に沿って十分な説明を行い、不安・疑問等にお答えし、理解を頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から電話や面会時に本人の様子を伝えと共に要望や意見を聞くよう努め、話のしやすい雰囲気作りを心掛けています。現在は新型コロナウイルス流行の為、運営推進会議での家族意見は聞き取れていません。	家族から聴き取り、課題となったことは、介護支援経過に記載し共有している。また毎月のミーティングや申し送り時にも共有し、家族の意見が反映できるよう取り組んでいる。毎月発行の白寿園便りでは本人の生き生きとした様子を伝え、家族からの意見や感想を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談時に、意見や要望、提案などを発言できる雰囲気作りに努めています。業務上の提案等に関しては、実現できるよう取り組んでいます。	人事考課制度を導入し、年2回自己評価表に基づき、2次(主任)、3次(管理者)と面談を行い、意見や要望を伝え、管理者は意見を反映できるよう努めている。毎月のミーティングや申し送り等では職員からの「〇〇が必要」等を迅速に反映し、意見の停滞がないよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境の改善に取り組んでいます。年2回の人事考査制度もあり、自己研磨・啓発が賞与に反映される為、レベルアップにつながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や、研修で学んだことを他職員に周知するため、勉強会で発表するなど学ぶ機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染拡大防止の観点から研修参加などは昨年に比べ減少したが、近隣の施設に訪問し看取りの現状や新型コロナ対策など話を伺う機会を設けるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に体験入居を行ったり、事前に情報収集を行ったりして、本人が安心して生活を送れるよう努めています。本人及び家族の言葉にも耳を傾け信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者及び管理職・リーダーが入居前や入居後など家族としての思いや願いなど面会時や電話、訪問を行い何でも話してもらえるような雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の困りごとやこれからの思いについて聞き取りや書面に記入して頂き、自分らしく生活を送れるような支援ができるように状況把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で個々の役割があり、一緒に行う事が1日の自然な流れになるような環境作りを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆を大切に頂けるよう面会や外出、電話等行ったり、記念日などは家族と過ごす時間を持てるよう調整を行っています。入居したことで更にお互いの良い所を再確認し良好な家族関係を築く事ができるような環境作りを心がけています(今年度は新型コロナウイルスの流行もあり、面会制限や禁止などさせて頂く事もありましたが、必要時の受診付き添いや衣類、物品の協力をお願いしています)。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望する方には馴染みの理美容室に行ったり、ご兄弟の葬儀等に職員やご家族にて支援を行えるように努めています。他にも大正琴のお弟子さんと呼んでの演奏会等も開催する事もありましたが、現在新型コロナウイルス流行にて開催はできていません。	コロナ禍で面会制限の状況下、毎月、各担当者が中心となって、利用者一人ひとりの近親者に「白寿園便り」を発行し、本人の笑顔、食事やレクリエーションの様子、職員との交流などをきめ細やかに伝えながら、家族等馴染みの関係が淀みなく継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の段階から、どの方と気が合いそうかなど検討を行い馴染みの関係作りに努めています。食事の配置やイベントなどの配置にも気を配り互いが安心できる時間を過ごす事ができるよう環境面でも支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時等は不安が少しでも和らぐよう新しい場所でも安心して生活を送る事ができるようできる限りの情報提供を行っています。また施設、家族、協力医の間で気軽に相談できるような関係作りにも努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日々の会話やしぐさ、表情や行動から汲み取り本人の意向の把握に努めています。家族の思いも会話の中から汲み取り、プランに反映できるよう努めています。	入居時に本人や家族から聞き取った思いや意向はケアマネや担当者をはじめ、全職員で共有化している。また、日々のかかわりの中ですくい上げた希望や思いは、支援経過の項目に「思い」として記載し介護計画に反映するなど、一人ひとりの気持ちに寄り添う支援に務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人、家族から生活歴を確認し、アセスメントシートに記載している。また、新しく得た情報は随時追加して共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録や行動把握表、バイタル表や受診票に記録をとり、個々の状態把握、情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の担当者、ケアマネにてモニタリングを行い、本人・家族の意向の確認、利用者の状態に合わせてミーティングを行い、随時ケアプランの見直しも行っています。	介護計画とモニタリングは3か月に1回見直し、毎月のミーティングで、一人ひとりの現況を話し合っている。家族からの思いも同様に話し合いの中で確認し、現状に添い、本人の思いが反映できるような介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を支援経過に項目別に記入。個々のケアプランや情報などを目のつく場所に設置し、職員が情報共有し、できる限りプランに基づいたケアができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩やドライブ・外食等の希望に応じた支援をしたり、ご本人にとって一番良い方法を考えるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、当施設イベントに地域の方が気楽に参加していただけるよう努めていたが今年度に関しては新型コロナ感染拡大防止の為、行っていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の思いに応じ、必要であれば協力医を紹介している。通院可能であれば、家族にて付添いを行って頂き、現在の状態が分かるような書類を作成し家族に手渡ししたり、FAX送付を行ったりして適切な治療が受けられるよう努めています。	入居時に、かかりつけ医について相談し、希望する医師を選択できる事業所の協力医は、定期的な往診で、担当入居者の疾病や健康の管理をしている。他機関への受診は家族対応であり、本人の状況がわかる記録の添付など、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在の為、ケアマネージャーが主治医と連絡を密にして、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、情報提供を行っています。担当ナースとも連絡をとり、早期退院できるよう努め、家族の思いの再確認も踏まえ一緒に今後の生活への注意事項等を聞くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申込みがあった時点より、重度化した場合や看取りを行っていない事について説明し、ご理解を頂いています。	重度化や終末期に向けての対応は、入居時に口頭で説明し、納得を得よう努めている。今後、重度化や終末期に向けた対応について、職員の意見も取り入れながら法人で検討し、本人・家族に納得してもらえるような方針を計画しているところである。	重度化や終末期に向けた対応について、法人・事業所としての「方針」を文章で作成して共有し、さらに一人ひとりの状況に見合った支援に努めることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にAEDを設置し、緊急時に対応ができるようマニュアルを整備。ケアマネージャー・管理者・主任やリーダーと連絡をとり、適切な対応が出来るよう努めています。緊急時は、救急車要請。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。新型コロナが収まれば地域の避難訓練にも参加予定となっています。	今年度は10月(夜間想定火災・洗濯室から出火)、3月(水害について机上訓練)の年2回避難訓練を実施、予定している。また、地震や水害の対策について、運営推進会議で地域の方々等の意見を聞きながら、検討を重ねているところである。	災害対策をより実効性のあるものとするため、避難経路の確認、水などの備蓄整備をはじめ、運営推進会議のメンバーや地域住民との協力体制等を築くような取り組みについて期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、更衣といった場面では扉を閉めるようプライバシーに配慮し、勉強会やミーティングなどで声掛けや接し方についての理解を深め振り返りを行っています。	一人ひとりの思いを受け止めることができるよう、各場面での言葉かけや誘導時の配慮についてミーティングで話し合ったり、スピーチロックの研修で気づきを得ている。研修後には全職員が「社内研修報告」を提出して振り返るなど、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	日頃の会話の中で本人の思いを確認したり、選択肢を設けたり、目で見て選んでいただく等自己決定が出来るような対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、できる限り本人の思いを優先し、希望に沿えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容にて、本人の思いを伺いながら、カットだけではなくパーマやカラーを行っています。入浴時には、本人と一緒に着たい服を選んで頂いたり、日々の身だしなみは必要に応じて支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配置や盛り付けなども考慮し食事の時間を楽しんで頂けるよう努めています。下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、食器洗いに盆拭き等一緒に行っています。	日々の献立表と食材は業者に委託し、調理、野菜の下処理、食器洗い等は、利用者とともにやっている。コロナ禍でも、利用者が希望する中華の出前や、仕出し料理などを利用して食事を楽しむことができた。感染が落ち着いたら以前のように自由に外食できることを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量のチェックの他、摂取状況も観察した上で食事形態、ご本人が好む飲み物等の提供を行い、無理なく摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力や口腔状態に応じ、声掛けや準備、介助など支援を行っています。夕食後は義歯消毒をし清潔に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合ったパットの使用とトイレへの声掛けをしています。	事業所独自の「行動把握表」で、排泄の間隔、形状、水分摂取状況等を把握し、言葉かけや誘導を行いながら、健康状態の維持に努めている。リハビリパンツ、パット等は個々に合わせた使用となるよう、本人の状態や記録を確認し、職員間の連携で排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムや水分量をチェックし、状況により牛乳・ヨーグルトを提供。医師の指示の下、緩下剤の調整などを行い排泄コントロールも行っていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴して頂けるよう支援を行っています。入浴剤の使用や2種類の浴室が用意されており、個々の状態に応じ入って頂いています。本人のタイミングに合わせた声掛けの工夫や嫌がられる方には無理強いせず時間や人を変更する等して安心した気持ちで入浴できるような環境に努めています。	2ユニットの事業所には、一般浴槽と機械浴槽があり、個々の状態に合わせて使用することができる。基本は週2回としているが、月～土が入浴日であり、希望に合わせた柔軟な対応に努めている。入浴時には好きな音楽を流したり、好みの服を選んだり、入浴剤で香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝時間や就寝前の習慣が違ふ事もあり、テレビを観たり、本人が安心できるような布団を提供したり、室温、湿度調整を行い気持ちよく眠れるよう支援しています。夜になると不安になる方に関しては都度話を聴いたり、温かい飲み物を提供し安心できる環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意。個人ファイルに処方箋を綴り、情報を共有しています。薬の変更時は副作用や状態悪化が見られていないか観察を行い、主治医に報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除機掛けや床拭き、洗濯物干し・たたみ等、個々の能力や思いに合わせ一緒にを行っています。本人の食べたい物などを聞き取り、昼食に提供したり、出前や仕出し等、取るなど楽しみや気分転換に繋げています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナや大雪もあり、外出の頻度は減少したが、施設周辺や玄関先、ドライブ等できる時は行っています。	コロナ禍においても、昼食持参でチューリップ公園や近隣公園へのドライブと散歩、「ソフトクリームを食べたい」に応じてドライブするなど、個々の思いに寄り添った外出を行った。日常的には、事業所周辺を散歩し、また家族と共に衣料品店に寄ったり、公園の散歩を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名のみ金銭管理を行っている。新型コロナの為頻繁に買い物へは行けない。行った際は、所持金の確認を行っている。他に関しては立替にて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される際は、ご家族にもご理解いただいた上で電話して頂いています。携帯電話持参の方に関しては、個々で家族と連絡を取り合ったり、充電の仕方が分からない方に関しては、時々確認し常に連絡が取れるよう対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには、わかりやすい表示をし、使用中の札も用意しています。中庭に花を植えたり、洗濯物を干したり、生活感や季節も感じられるようにしています。	玄関、廊下等はシンプルであり、壁紙の一部に和紙模様を配置するなど来客をもてなす雰囲気がある。共用空間には、各ユニットの個性があり、利用者との合同作品や、スナップ写真の掲示、椅子やテーブルの配置にも利用者に添った仕様が見られる。また、加湿、空気清浄、温度、採光に配慮した心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前ソファには自然と仲の良い方々が集まり、会話をしたり、個々の趣味を楽しまれたりしています。その他にも廊下に掲示物を展示し散歩がてら季節を感じて頂けるような雰囲気作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品を自由に飾る等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	各居室には洗面台、ベッド、エアコン、冷蔵庫(必要時)、衣類棚があり、棚の上には家族の写真や手作りの作品、おみやげ物等が所狭しと飾っており、温かい雰囲気をつくっている。持ち込みの家具も自由に配置されており、一人ひとりの個性が活きるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに分かりやすい貼り紙をしたり、本人の生活スタイルに合わせた必要物品などを固定の場所に置き、分かりやすい環境作りに努めています。		

2 目標達成計画

事業所名:グループホーム白寿園戸出

作成日: 令和 2 年 3 月 16 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4(3)	運営推進会議の開催日時や話し合った内容に関して、掲示板に掲示はしているが家族等への周知はしていない。	運営推進会議に興味を持って頂けるようにする。	・毎月発行している日々の暮らしの予定欄に開催日時を記載する。 ・会議で話し合った内容などの議事録と一緒に同封する。	6ヶ月
2	33(12)	重度化や終末期に向けて本人や家族の意向の確認、事業所としてできることの方針を検討、ガイドラインを作成できていない。	重度化や終末期に向けて事業所としての「方針」を作成し職員間で共有することができる。	・ガイドライン(重度化、終末期に向けた方針)を作成する。 ・勉強会を開催し共有し支援の在り方について話し合いの場を作る。	12ヶ月
3	35(13)	災害時の避難場所の確認、避難時の誘導や協力体制が不十分である。	地域住民との協力体制を築けるようにする。	・運営推進会議の中で防災訓練の協力要請の呼びかけや地域の防災訓練なども参加させて頂けるよう依頼する。 ・勉強会の中で避難場所の確認を職員間で共有する。 ・水などの備蓄整備を行う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。